第2学年　生活科学習活動案

日時　令和 7 年11月 21日（金）
5校時
桜町小学校

対象		授業者
第２学年１組	３３名	古田　栞里
第２学年２組	３２名	柳澤　生織
第２学年３組	３４名	金鞍　妙子
第２学年４組	３２名	後藤　眞里
第２学年５組	３５名	中田　未来

1　単元名:「この町　大すき　さくらまち」

2　単元を通して子どもたちが学ぶであろうことがら
地域と関わる活動を通して、地域で生活したり働いたりしている人々と、自分たちの生活との関わりについて考え、地域の人々の地域に対する思いに気付くとともに、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活しようとすることができるようになる。

3　育つと考えられる資質・能力及び評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地域と関わる活動の過程において、自分たちの生活が様々な人や場所と関わっていることや、地域の人々の地域に対する思いを理解することができるようになる。	地域と関わる活動の過程において、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々と自分たちの生活との関わりについて考えることができるようになる。	地域と関わる活動の過程において、それらに親しみや関心をもち、仲間と助け合い、協力しながら適切に接したり、安全に生活したりしようとする。
①　町にある場所や働く人々、建物などについての名称や役割を理解している。 ②　実際に訪れた時に聞いたことを記録している。 ③　調べたことを友達と共有したり、発表したりするために、まとめている。	①　探検中の発見をもとに、感じた疑問についての自分なりの考えをもっている。 ②　ほかの場所と比べて違いに気付き、新しい発見をするとともに、その物事の理由を考えている。 ③　自分の考えや調べたことを、絵や言葉など自分にとって最適な方法で表現している。	①　探検活動に興味をもち、意欲的に参加している。 ②　地域の人に対して礼儀正しく接している。 ③　一緒に探検する友達と、協力して活動している。

4　単元の価値・児童に期待したい学び
※単元計画・研究の手立てに同様の内容を記載。

5　研究の手立て
○子ども主体の学習になるための手立て

(1)必然性のある材

2年生になり、子どもたちの活動範囲も広くなり、放課後子どもたち同士で約束をして公園で遊ぶといったことが増えてきた。それに伴い公園にもそれぞれ特徴があることに気が付いている。また、行ったことのあるお店や関わったことのある場所について知っていることを伝えたいという思いが自然と生まれてきた。そこで、「町探検をして、町の特徴を探ろう。」と、投げかけ町探検が始まった。最初は通学路を歩くことで、コースによって商店街や住宅街などの特徴があることを知った。また、みんながよく使う、公共の場所(図書館や児童館)を訪れ、そこで働く人たちの話を聞くことによって、よく知っていると思っていた場所でも新しい発見や気付きがあることが分かった。そのことから、もっと探検をしてお気に入りの場所や新しく知った場所を更に知りたいと考えるようになった。

(2)子どもと共に追究する一人の教師としてのあり方

子どもたちが活動をするにあたり、まず自分の家の近所のお気に入りの場所を紹介しながら地図を作製した。その後通学路をみんなで歩くといった町探検をするなかで、コースによって様子にどんな違いがあるかを考えたり、気になった場所を見付けたりするように声掛けをしながら取り組んだ。さらにみんながよく使う公共の場所(図書館や児童館)を訪問し、そこで働く人々の工夫や苦労を知った。その経験を、町探検をした際に興味関心を深めた場所にはどんな工夫や苦労があるかを調べたいという意欲につなげていった。教員は、子どもたちがもっと知りたいと考えた施設やお店に何度か連絡をして、訪問できるように手配をし、教員自身もその場を訪ね、教師も児童と同じ目線に立ち、材の魅力や面白さを再発見し、子どもたちと気持ちを共有していった。

○探究的な学びに向かうための手立て

※『カリキュラム・マネジメント表』及び『7 「せたがや探究的な学び」の４つのプロセス』参照

○協働的な課題解決に向かうための手立て

自分の考えや思いを一人ひとりがもつ

一人ひとりが自分の住んでいる町の素晴らしさに気付き、もっと知りたい、調べたことを誰かに伝えたいという気持ちをもつことを大切にしながら活動を続ける。そのためにも子どもたちが意欲的に活動ができるようにグループは興味をもった場所が同じ子どもたちで組めるように学級の枠を越えて形成する。グループ活動の際には、友達と話し合いながら知りたい質問を考えたり、役割分担をしたりしながら活動を進めていく。調べたことをみんなに知ってもらうにはどうしたら効果的かをグループで話し合い、試行錯誤しながら続けていく。

6 キャリア・未来デザイン教育の視点から

	「キャリア・未来デザイン教育」の視点	予想される児童の姿
①	人間関係形成・社会形成能力(協力・協働) ※他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ等	・町のすてきなところを見付けて、伝えている。 ・友達が見付けた町の魅力について興味をもって聞いている。 ・訪問先で知りたいことの質問を積極的にしている。 ・同じ場所を訪問する友達と意見を交換している。
②	自己理解・自己管理能力(主体性・思考力) ※自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等	・町のすてきなところを見付けもっと知りたいと考えている。 ・自分が気になることや疑問に思ったことを質問しようとしている。 ・訪問先の方との関わり方について考え行動している。 ・この活動に関して自分の役割を認識し、積極的に活動している。
③	課題対応能力(課題発見・分析・解決) ※情報の理解・選択・処理など、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価、改善等	・質問したり、調べたりして、分かったことをまとめてみんなに伝えようとしている。 ・効果的な発信の仕方をみんなで考えている。
④	キャリアプランニング能力(主体性・役割理解・社会貢献) ※学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性への理解、将来設計、選択、行動と改善等	・グループ活動で自分の役割を見付けている。 ・どうしたら自分たちが調べたことを分かりやすく伝えられるかを考えている。

7 「せたがや探究的な学び」の４つのプロセス

世田谷区では、幼児・児童・生徒の実態に即した「せたがや探究的な学び」を通した授業改善に取り組んでいる。世田谷区の児童・生徒の実態は、学力は定着しているが、学んだことが社会で役に立つという実感や、将来の夢や目標の実現への意欲、人の役に立つ人間になりたいといった意志に課題が見られる。学びの中で、自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことを通して、将来、自己実現を図るために必要な資質・能力を習得できるような学びを推進していく必要がある。

	探究的な学び ４つのプロセス	予想される児童の姿
1	課題を見出し、把握している	・「町探検」を通して、自分がもっと知りたい、深めたいと考えることを見い出している。。 ・「町探検」を通して町のよいところを見付けている。 ・自分たちが調べたり、訪問したりした場所の魅力を知ってもらうために何をしたらよいか考えている。
2	課題解決の方法を考えている	・知りたいことをまとめ、インタビューすることで、町のよさを深めることを目指す。 ・訪問した場所でインタビューしたことを自分たちの活動に生かしている。 ・どんな方法で紹介すれば自分たちが訪問した場所の魅力を表現できるか考えている。
3	協働して学んでいる	・自分たちが訪問する場所の魅力を知るためにはどんなことを質問したらよいかを話し合って決めている。 ・訪問する場所で働いている人々が協力してくれることに感謝の気持ちをもちながら活動している。 ・訪問した場所の魅力を伝えるための方法を話し合いながら作成している。
4	学びを振り返り、次につなげている	・町探検後、今後どのように学習を進めていくか考えている。 ・活動後に振り返りを行い、もっと魅力が伝わる表現の方法がないかを考えている。 ・訪問した場所でインタビューをした後、その情報をどう活用するか考えている。 ・この経験を次年度以降どのように生かしていくか考えている。

8 単元について（単元計画・評価の観点）

※別紙参照

9 本時の展開

※別紙参照